

G20大阪サミット消防特別警戒の実施結果

消防庁消防・救急課 消防庁予防課

1 G20大阪サミットについて

本年6月28日、29日、大阪府大阪市にある「インテックス大阪」を会場として、G20大阪サミットが開催された。当該サミットは、G20メンバー国や招待国の首脳、国際機関など、37の国と機関が参加する国内で開催される首脳会合としては、史上最大規模の国際会議であり、消防としてもサミットの円滑な運営と会議参加者の安全を確保するため、関係施設への火災予防対策やテロ災害を含めた各種災害発生時の即応体制を万全のものとし、消防責任を果たす必要があった。



任務伝達式（大阪府咲洲庁舎1階フェスパ）

2 G20大阪サミット消防・救急対策委員会

平成30年4月10日の閣議了解により、大阪市でのサミット開催決定後、消防庁及び関係消防本部等により準備を進め、平成30年9月25日、関係消防本部、大阪府、全国消防長会及び消防庁を構成員とするG20大阪サミット消防・救急対策委員会を設置し、サミットに向けた検討体制を整えた。

また、委員会における審議を経て、平成31年3月13日には、関係消防本部61本部による「G20大阪サミット消防・救急体制整備に関する応援協定」を締結した。



消防庁長官による挨拶

3 警戒概要

(1) 警戒期間

令和元年6月24日から同月30日まで

(2) 参加機関

大阪府内27消防本部、他都府県34消防本部、大阪府、消防庁

(3) 部隊数

277隊（消防車両266台、航空機6機、消防艇5艇）

(4) 人員数

2,858名（警防要員2,179名、予防要員272名、本部要員407名）



大阪市長による挨拶



4 警戒体制

(1) 統括警戒本部

大阪市消防局長を警戒本部長、大阪府危機管理室消防保安課長を調整官、消防庁消防・救急課長を統括官として、大阪市消防局に統括警戒本部を設置し、統括警戒本部の意思決定を行うコントロールセンターと、作戦班、情報班、予防班等により構成され、随時、首脳等要人の動向や関連行事の進行状況に応じて警戒部隊等の運用・調整を行う作戦室を設置した。

なお、コントロールセンターにおける朝夕の定例会議等の模様は、テレビ会議システム等を活用し、関係各所に情報共有できる体制を構築した。



統括警戒本部（コントロールセンター）



統括警戒本部（作戦室）

また、統括警戒本部には、消防研究センター保有の機動鑑識車を配備し、サミット関連施設等における火災発生時の原因調査、鑑識体制の強化を図った。



機動鑑識車

(2) 現地警戒本部等

統括警戒本部指揮のもと、主会場であるインテックス大阪、首脳等要人が利用する航空機が離発着する関西国際空港及び大阪国際空港に現地警戒本部を設置するとともに、都市部におけるサミット開催という特性も踏まえ、大阪市内を北エリア、南エリア及び西エリアに区分のうえ、警戒部隊の進駐警戒拠点を設置し、それぞれにNBC等テロ災害発生時に対応する部隊を配備した。



首脳会議場警戒部隊



関西国際空港現地警戒本部



市内南エリア進駐警戒拠点



大阪国際空港警戒部隊



市内西エリア進駐警戒拠点



市内北エリア進駐警戒拠点

また、その他、首脳等宿泊施設における進駐警戒や要人等の移動経路となる高速道路警戒、大型ヘリコプターを含む航空機による航空警戒、消防艇による海上警戒も実施し、万全の体制を確保した。



大型ヘリコプター離発着訓練



大型ヘリコプター夜間離発着訓練

(3) 予防警戒等

首脳等要人の動向やサミット関連行事に合わせ、適時、予防警戒員による主要駅等の巡回警戒、関連施設に対する事前立入検査、進駐警戒の増強、さらには、必要な消防部隊の移動配備による警戒を実施するなど、実態に即した効果的な警戒を実施した。



予防警戒員による巡回警戒（JR大阪駅）



予防警戒員による進駐警戒の増強（首脳等宿泊施設）

5 関係機関との連携確保

サミット関連行事の進捗状況や首脳等要人の動向等について外務省、救急事案発生時の搬送手段及び搬送先医療機関の調整について厚生労働省や医療関係者、交通規制等の動向について警察機関等、警戒を実施するにあたり、様々な機関との連携体制を構築し、情報収集・各種調整を図った。

6 警戒実施結果

警戒期間を通じてのサミット関連事案は、以下のとおりである。

- ・ 警防：航空機の緊急着陸に伴う警戒活動 1 件
- ・ 救急： 7 件
- ・ 予防：自動火災報知設備の非火災報等への対応 9 件
巡回警戒による注意喚起 89 件
立入検査 12 か所

7 最後に

今回の G20 大阪サミットは、わが国において史上最大規模の国際会議で、首脳をはじめとした要人数も多いうえに、都市部開催という事情も加わり、過去に例を見ない警戒規模が必要とされた。そのような中、昼夜を分かたず刻一刻ともたらされる関連情報から、正確な状況把握とリスク評価を基に、果敢な運用・調整が必要とされるものであったが、警戒に参加した消防職員一人一人が、日本代表として一丸となり、消防特別警戒の完遂を導いたものである。

今回の経験は、これから後に続くラグビーワールドカップ 2019 及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模イベントにおける安全・安心を確保するための消防特別警戒において、大きな財産となったといえよう。

問い合わせ先

消防庁消防・救急課
TEL: 03-5253-7522
消防庁予防課
TEL: 03-5253-7523